

平成 2 7 年度

— 第 5 回 (定例・臨時) —

教育委員会議事録

開 会	平成 2 7 年 6 月 1 2 日	午前	1 5 時 0 0 分	午後		
閉 会	平成 2 7 年 6 月 1 2 日	午前	1 5 時 4 0 分	午後		
会 議 場 所	教育委員室					
委員出欠	花山院弘匡	出	佐藤 進	出	森本哲次	出
	藤井宣夫	出	高本恭子	出		
議事録署名	教 育 長					
委 員	教育長職務代理者					
書 記	奈良県教育委員会事務局 企画管理室					

議 案 及 び 議 事 内 容	結 果
<p>次 第</p> <p>議決事項 1 平成 2 8 年度使用教科用図書採択基準及び選定資料について</p> <p>議決事項 2 奈良県文化財保護審議会委員の委嘱について</p>	<p>可 決</p> <p>可 決</p>
<p>○吉田教育長「ただ今から、平成27年度第5回定例教育委員会を開催いたします。本日は委員全員出席で委員会は成立しております。」</p>	
<p>○吉田教育長「まず、前々回及び前回の定例教育委員会議事録の承認についてです。」</p> <p>「お手元に配布している議事録について、各委員内容をご確認ください。」</p> <p>「ご承認をいただけますでしょうか。」</p> <p>※ 各委員一致で承認</p> <p>○吉田教育長「本日の案件のうち議決事項2については、人事に関する案件であり、秘密会において審議すべきものと考えます。委員のみなさまにお諮りします。いかがでしょうか。」</p> <p>※ 各委員一致で可決</p>	<p>承 認</p> <p>可 決</p>
<p>議決事項 1 平成 2 8 年度使用教科用図書採択基準及び選定資料について</p>	
<p>○吉田教育長「それでは、議決事項 1 『平成 2 8 年度使用教科用図書採択基準及び選定資料』について説明願います。」</p> <p>○大西学校教育課長「平成 2 8 年度使用教科用図書採択基準及び選定資料について、ご説明します。</p> <p>採択基準等について、これは県教育委員会として採択権者の権限と責任の下、教科書の内容について十分な調査研究を行うことと、適正かつ公正な採択の確保を徹底し、開かれた採択を一層推進することなどを指導するために示しています。</p> <p>内容は、採択に当たっての基本的な事項や、採択を適正かつ公正に行うための配慮事項、それから採択に至るまでの方法や手続き等について示しています。</p> <p>本年度は中学校の教科用図書の4年に1度の採択替えの年になります。選定資料は、検定を合格いたしました教科書について、59名の調査員が調査・確定した結果をまとめた資料です。教育委員会としましては、この資料の提示をもって、採択事務への助言援助としたいと考えています。</p> <p>また県立中学校、及び県立特別支援学校で使用する教科書につきましては、8月に行われる定例教育委員会で採択することになります。教科書見本は学校教育課に配置しています。委員の皆様方におかれましては、教科書見本をご確認いただき、また選定資料も参考にしてくださいをお願いします。」</p> <p>○吉田教育長「ただいまの件につきまして、ご意見、ご質問はございませんか。」</p>	

議案及び議事内容

○吉田教育長「ご意見がないようですので、原案どおり議決してよろしいでしょうか。」

※ 各委員一致で可決

○吉田教育長「議決事項1については可決します。」

その他報告事項

○吉田教育長「その他報告事項について、ご報告をお願いします。」

○香河学校支援課長「平成27年4月1日現在で文部科学省が調査をいたしました、公立学校施設の耐震改修状況調査の結果についてご報告させていただきます。

構造体の耐震化整備状況のうち、幼稚園、小・中学校について、県内の耐震化率は依然として全国平均を下回っている状況です。全国順位では、幼稚園で42位、中学校で32位、なお小・中学校は39市町村のうち、26市町村で既に耐震化を終えている状況です。高等学校は46位。県立学校の耐震化率は76.8%です。

県では従前より災害弱者が多数在籍する特別支援学校を優先して、耐震化を進めてきました。その結果、最後になりました明日香養護学校の改修工事に伴う解体工事が終了しましたので、特別支援学校の耐震化率は100%となっています。

県立高校については、平成25～29年度を耐震化整備の集中期間として、現在重点的に取組を進めています。今年度については13校17棟の耐震化工事を予定しており、完了すると、今年度末時点で耐震化率は82.7%になる見込みです。

続いて非構造部材の耐震点検、耐震対策の状況です。高さが6mを超える、また水平投影面積200㎡を超える天井を有する体育館、講堂等のうち、吊り天井を有する施設は、幼稚園はなし、小・中学校で23棟、高等学校で14棟、うち県立学校は12棟です。特別支援学校は2棟です。県立高校及び特別支援学校については、専門家による耐震点検を終了しており、順次設計、工事に取掛かっております。

その他非構造部材で、人に重大な被害を与える恐れのある箇所について、学校単位で行っている点検、対策の状況についてです。この点検は文部科学省が作成いたしましたガイドブックに沿って、学校の教職員等が点検を行うものです。

幼稚園、小・中学校における点検の状況、点検後の対策の状況については、ともに昨年度と同様、低い状況が続いています。また高等学校及び特別支援学校につきましては、毎年、学校の教職員が点検を行っていますので、県立学校につきましては100%です。

各市町村の耐震化、非構造部材の点検等の推進につきましては、教育長会または担当者会議の機会をとおして耐震化の状況について周知を行うとともに、対策についての依頼も行っています。また来月（7月）には、文部科学省の担当者を招いて、耐震整備の重要性について説明いただく機会を設けたいと思っています。さらに国に対しても補助率の引き上げ等を要望したいと考えております。」

○花山院委員「日々学校で点検されていることと思いますが、地震が起こったときは塀が倒れたりしました。ポールが劣化することもあり、このような付随する設備等について、どのような点検をしているか、ご報告ください。」

○香河学校支援課長「塀やポールなどは基本的には学校で、目視等にて点検しています。」

○森本委員「文部科学省の担当者を招いて説明会をしていただくということですが、受講の対象者等をどのように考えていますか。」

○香河学校支援課長「市町村の担当課長を集める会議がありますので、その場で説明していただくことを想定しています。」

議案及び議事内容

○森本委員「小・中学校の耐震化率の順位は、昨年より落ちています。市町村の場合は、ニーズに対してそれぞれの思いが錯綜し、市町村毎の認識もバラバラです。県から市町村に方針等についてきっちりと説明していただき、早期に耐震化を完了するよう指導いただきたいと思えます。」

○大西学校教育課長「平成27年3月中学校卒業者の進路状況について、ご報告させていただきます。

中学校卒業生数については、平成元年3月をピークに減少傾向にあります。本年3月の中学校卒業生数は13,907名で、昨年より177名の減となっています。

高等学校への進学者は、昨年に比べ138人減の13,605人となっています。この他特別支援学校進学者が130名、就職者数が15名、専修・各種学校の進学者数が94名、再受験の準備者、家事従事者など63名となっています。

進路状況別の進学率等について、高等学校は97.8%、昨年に比べて0.2ポイントの増となっています。一方特別支援学校への進学率は0.1ポイントの減、就職率は増減無し、専修・各種学校の進学率については0.1ポイントの増となっています。

続いて県内高等学校への進学率は86.0%となっておりまして、昨年に比べ0.3ポイントの増となっています。へき地指定されている13の中学校から高等学校への進学率は、96.2%となっており、昨年に比べて3.1ポイントの減となっています。」

○吉田教育長「県外高等学校への進学など出入について、どのような状況でしょうか。」

○大西学校教育課長「県内高等学校への進学率の推移をみる限り、大きな変化はないと考えています。

県外中学校から県内私立高等学校全日制課程への進学者数が757名で、県外から県内公立高校への進学も含めると、996名が県内に流入している状況です。差し引き、553名が流出しています。昨年度は549名の流出ですので、ほぼ例年と変わらない状況です。」

○花山院委員「今後比較的長いスパンで中学校卒業者の推移はどう考えていますか。また環境が大きく変わる中で県教育委員会としてどのように対応を予定していますか。」

○大西学校教育課長「全体的には微減が続く中、現在の小学校5年生が少なく、平成30年くらいに大きく減少する見込みです。さらに数年後、また大きく減少すると見込んでいます。

その対策については検討委員会にて、前年度に引き続き検討していきたいと考えています。」

○堀川教育研究所副所長「教育セミナー2015について、ご報告させていただきます。

5月29日（金）教育研究所において『平成27年度教育研究所教育セミナー2015』を開催しました。

今年度のテーマは『ともに学ぶ！～学びの可能性をひろげるICT活用～』としまして、まず全体会で、タブレットパソコンなどの情報端末機器を活用した授業づくりについて、提案させていただきました。続きまして、会場の参加者と意見交換しながら、機器を活用した、これからの授業の在り方についてともに考えました。

全体の終了後は、研究所が取り組んだ研究発表報告を中心に、県内大学、教科等研究会などの協力も得まして、22本の研究発表を行わせていただき、本県の教育課題の解決や授業の改善に向けた取組の成果を共有させていただきました。

当日は幼稚園、小学校、中学校、県立学校教職員を中心に、400名を超える参加をいただきました。

最後にアンケートを実施しました。全体会については、『ICTの様々な活用法があることを知った』、『ICTの活用に苦手意識があったができることからやってみよう』といった感想を、研

議案及び議事内容

究発表については『これからの授業で生かせるような知識を得た』といった感想をいただきました。

現場での実践につながる新しい視点との出会いの場を、参加者に提供するという、セミナーの趣旨が達成できたと感じています。このアンケートをさらに分析して、次年度の開催に生かしたいと考えています。

高本委員に最初から来ていただきました。ありがとうございました。」

○高本委員「じっくりと勉強できるいい機会でした。先生方が3、4年かけて練り上げて、そして一つの道を見つけたといった感じの、本当にためになる発表会でした。」

○吉田教育長「他にご意見がないようですので、承認してよろしいでしょうか。」

※ 各委員一致で承認

○吉田教育長「ただいまの報告については承認いたします。」

○吉田教育長「本日の秘密会を除く議案は全て終了いたしました。」